

全 仙

ZENBUTSU

JAPAN
BUDDHIST
FEDERATION

仏暦2568年10月
[2025年]

No.667

特集

第47回 全日本仏教徒会議 大阪大会
第104回WFB(世界仏教徒連盟)執行役員会議





第47回 全日本仏教徒会議 大阪大会 第104回WFB(世界仏教徒連盟)執行役員会議

2025(令和7)年9月5日から6日にかけて、第47回を数える全日本仏教徒会議と、それに合わせて第104回WFB(世界仏教徒連盟)執行役員会議が、大阪心斎橋の御堂筋沿いに建つホテル日航大阪と、日本仏法最初の官寺である和宗総本山四天王寺を会場として開催されました。オンライン配信の視聴者を含めて2日間で約1,500人の参加者と、世界12カ国から約40人のWFB執行役員が集まりました。

大阪では、同時期にEXPO 2025 大阪・関西万博が開催されており、同万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」の、「いのち」を仏教的に深めることを目的として、「無量の『いのち』～すべてのいのちを慈しむ～」をテーマとしました。

それに基づいて、1日目には仏教から戸松義晴氏、キリスト教から小原克博氏、イスラム教からアナス・ムハンマド・メレー氏とサイド・佐藤裕一氏、神道から三宅善信氏をお呼びし、ファシリテーターを釈徹宗氏とした諸宗教対話フォーラム「未来社会における宗教の役割」を実施しました。

2日目には、大阪・関西万博のテーマ事業プロデューサーで生物学者の福岡伸一氏と、音楽家で数学者の中島さち子氏に、それぞれがプロデュースした「いのち動的平衡館」と「いのちの遊び場クラゲ館」を紹介していただいた後に、小説家の高橋源一郎氏と人類学者の山極寿一氏を加え、釈徹宗氏をコーディネーターとして、大会テーマ「無量の『いのち』～すべてのいのちを慈しむ～」を冠したシンポジウムを開催しました。

本号では、この諸宗教対話フォーラムと、シンポジウムの模様をお伝えします。どちらも紙幅の都合上、抄録となりますが、本会のYouTubeチャンネル(二次元コードをそれぞれのページに付しています)にてすべてを公開していますので、ぜひご覧ください。また、同時に開催された第104回のWFB執行役員会議を報告します。日本の仏教界が本会を通じて世界の仏教界と繋がっていることを感じていただければ幸いです。そして、裏表紙に大阪大会の大会宣言を掲載しております。ぜひご覧ください。

全日本仏教徒大会は2年に一度開催されます。次回第48回大会は、2027年に東京で全日本仏教会の法人創立70周年と合わせて開催されることが決定したことをここに報告いたします。

最後に、大阪大会の実現に向けて尽力してくださった、村山廣甫大会会長と清澤悟実行委員長を始めとする大阪府仏教会、並びに関係各位の皆さまには心より感謝申し上げます。

特集

第47回 全日本仏教徒会議 大阪大会 第104回WFB(世界仏教徒連盟)執行役員会議 …… 3

諸宗教対話フォーラム「未来社会における宗教の役割」 ……	4
シンポジウム「無量の『いのち』～すべてのいのちを慈しむ～」 ……	11
第104回WFB(世界仏教徒連盟)執行役員会議 ……	17
実行委員長挨拶 ……	20

本会からの報告 …… 21

- ・第36期第5回社会・人権審議会
- ・ドライ・ラマ法王誕生記念祝賀パーティー
- ・第36期第1回朝鮮半島出身者の旧民間徴用者等の遺骨返還委員会
- ・「首相及び閣僚等の靖国神社公式参拝に関する見解並びに要請」提出
- ・第6回法人創立70周年記念事業実行委員会
- ・仏教に関する実態把握調査(2024年)説明会実施
- ・第36期第4回支援検討会議
- ・「救援基金」寄附者一覧
- ・「賛助会員」新規入会者一覧



表紙絵について

今号の表紙絵は、第47回全日本仏教徒会議大阪大会の冊子の表紙に使われたもので、自身の厳しいシベリア抑留体験から絵筆をとり、油絵で禅画の世界を開いた松崎禪戒老師が描いたものです。「もし今お釈迦さまが生きておられたら」をテーマとし、あらゆる国の人々や宗教、動植物、山川草木は言うに及ばず、天地宇宙の営みまでが十二支の干支で象徴して描かれています。

この絵を採用した大会会長である村山廣甫・大阪府佛教会会長の、「平和・環境・人権を守る努力を仏教が一丸となって続けていくことは、現代の宗教者に課せられた課題であり使命」という熱い思いをこの絵を通して共有できれば幸いです。

1 目目 諸宗教対話フォーラム「未来社会における宗教の役割」



全日本仏教会
YouTube
チャンネル

1 目目 諸宗教対話フォーラム「未来社会における宗教の役割」

積徹宗【ファシリテーター】
僧侶。宗教学者。相愛大学学園長。武蔵野大学総長。浄土真宗本願寺派如来寺住職。宗教思想や宗教文化の領域において、比較研究や学際研究を行っている。近著に『喜怒哀楽のお経を読む』(朝日選書)など。



戸松義晴【仏教】

僧侶。ハーバード大学大学院神学校にて神学修士取得。元全日本仏教会理事長。現在、WFB(世界仏教徒連盟)執行役員、WCRP世界宗教者平和会議日本委員会理事長、日韓仏教交流協議会理事長。浄土宗心光院住職。



小原克博【キリスト教】

博士(神学)。同志社大学学長、神学部教授。良心学研究センター長。専門はキリスト教思想、宗教倫理、一神教研究。著書『ビジネス教養として知っておきたい世界を読み解く「宗教」入門』(日本実業出版社)など。



アナス・ムハンマド・メレー【イスラム教】

サウジアラビアのマッカ市出身。2007年サウジ王国奨学金プログラム第1期生として来日。日本工業大学で博士号を取得。2019年ムスリム世界連盟日本支部代表に。在日サウジ大使顧問。イスラム文化だけでなく工学にも造詣が深い。



サイド・佐藤裕一【イスラム教】

福島県生まれ。サウジアラビアのイマーム大学宗教原理学部卒。国内のイスラーム組織でイマーム(礼拝の導師)や教化活動に携わる一方、大学などでアラビア語講師も務める。宗教法人日本ムスリム協会副会長。



三宅善信【神道】

同志社大学とハーバード大学で学究生活を送った後、金光教内の諸役を歴任。WCRPやIARFを通じて諸宗教対話活動に貢献。国際宗教同志会事務局長や神道国際学会理事長、日本国際連合協会関西本部理事長を務める。



1. それぞれが一番大切にしているもの

積徹宗

このシンポジウムでは、世界の現状への危惧と、各宗教、各信仰が未来に向けてどのような提言ができるのかについて取り組んでみたいと思います。

その前に、個人的にもぜひ聞いてみたいことがあります。ありまして、それは、自身の信仰の道、あるいは修行の道を歩み、教えに沿って歩んでおられるそれぞれの先生方にとって、一番大切にしているものは何かです。

三宅善信

人と会うことで、その人と私の間の科学反応が起きる。それによって自分を見ていくことです。自分で自分を見ることはできないですから、相手との反応を通して自分を見ることを大事にしていると最初に申しあげたいと思います。

アナス・ムハンマド・メレー

一つは、農業などの技術が発展すれば、全世界の人類を生かしていくということ。もう一つは、人間にはいろいろな民族や部族があるので、対話

して共通点を見つけることによって、平和や地球の発展に繋がるということ。

これらは私自身がサウジアラビアのメッカから日本に留学して技術を学び、イスラム世界と東アジア世界の架け橋としてやっていこうとしている中で、活かしていけると考えています。

サイド・佐藤裕一

私は逆に、日本生まれでサウジアラビアに留学してイスラムを学んだ立場ですが、それぞれの宗教にはその目的があると思います。それらは形や詳細では違っていても、大まかに見ると同じような潮流とか流れになっている場合があるのですが、私はイスラムの視点からのこの世における人生の目的を忘れないように、日々意識していくことを大事にしています。現世的な生活、俗世的生活の中ではどうしても忘れやすいですが。

小原克博

私は、歴史を大切にしたいと思っています。過去に私たちがどういう経験をしてきたのか、あるいはどういう誤りを犯したのかという歴史的な視点をしっかりと踏まえてこそ、未来に責任を持って語り、展望することができると思います。技術の進展は非常に速くて、それに追いつこうとする

と近視眼的になりがちですから。

戸松義晴

正直に言えば、一体僧侶って何だろうという思いは、今でもまだ続いています。それは相対的には常に変わると思いますが、変わらないのは仏陀の言った非暴力です。歴史から学ぶと、人間は決して平和な世界を築けないと思います。戦ってでも命を奪ってでも、自分たちの良いようにやろうとするのが人間の本性にあるような気がします。だからこそ、それを少しでも止めるブレーキが必要で、それが仏教の非暴力だと思っています。

2. 暴力や平和について

積徹宗

人類の知恵の積み重ね、結晶である宗教という体系が、果たしてどのようなものを提示できるのかに話を進めていきたいと思っています。果たしてどこまで、信仰の自由も含めて、お互いにどれだけ尊重しあって、どれだけ折り合っているか。また、「非暴力」というテーマも出てきました。宗教者としての立場から暴力や平和についてのご示唆をいただければと思います。

三宅善信

人間と暴力はやはり避け難い問題です。グテレス国連事務総長と対話した時、彼は、80年前の正義の構造、つまり戦勝国とか国連そのものが、2025年においては、そのまま不正義になっていると、国連のあり方を問うかなり突っ込んだお話をされていました。

世界中のどの国にも信仰を持っている人がいて、敵同士と言われる国にも同じ宗教の人がいるわけですから、もっと宗教者がそこへ割って入ってコミットしていかなきゃいけないんじゃないかと思っています。

戸松義晴

私は世界宗教者平和会議の日本委員会理事長で、つい今年の7月にも、ロシアとウクライナの公式の代表者たちと話をしたんですけども、現実是非常に厳しいと思います。残念ながら宗教者だけではこの問題は解決



できないと思います。

宗教者が社会の周辺部に移っている今、教えとか信仰だけに基づくには限界があって、私たちがしていない経験、例えば政治や経済をしている人たちから学ぶことが必要だと考えています。

アナス・ムハンマド・メレー

今、SNSの社会になってきて、ヘイトスピーチ、特にイスラムフォビア(嫌悪)が流行ってきていて、それも暴力に繋がる可能性があります。その中で、宗教者も技術を学ぶ、あるいは技術を持った人と繋がることによって、正しい情報や宗教同士の共通点など、政治家から一般の人に広がるようにならないといけないと思います。

サイド・佐藤裕一

全ての宗教に共通する理念や原理、その一つが平和だと思います。

日本という国は海外から見ると特別な環境にあるような気がするんです。例えば先月8月4日に比叡山で「世界宗教者平和サミット」が行われ、38年間同じ場所でも岐にわたる宗教諸派が集まって、平和のために祈っています。祈りなんかして何になるんだという批判の声も聞かれるんですけど、海外的な視点から見ると、これだけで非常に

価値があることだと改めて実感しました。

まずは私たち日本社会の中で、宗教者たちが仲良くする姿を見せ、それによって宗教や多文化の平和共生のモデルを世界に提供することもまた、一つの道になるんじゃないかと思っています。

小原克博

政治や経済に関わる人、あるいは地域の人々に対して、一目置かれる存在にならなければ、長い目で見て社会に影響を与えることはできません。私たちが、今の若者が抱えている課題にも向き合って、宗教には自分たちが気づかなかった知恵のようなものがあると気づかせることができれば、そしてそこには言葉であっても、物理的であっても、暴力的な行為はよくないという文化を私たちが広げていくためには、宗教者には極めて重要な役割があると思います。諦める前に、することはまだまだたくさんあるのではないのでしょうか。

戸松義晴

最初に、宗教者には平和に意味のある活動ができないと言いましたが、世界平和という目的や目標は、私たちにはそれができないことが理性的に分かっていても、ある意味では合理性を超えて、それを捨てず諦めずに持ち続けるのが宗教の役割

だと思います。

その時に、仏教では縁起、キリスト教では汝の敵を愛せと言いますが、そういう言説は今是一般の人々の心には響かなくて、むしろその国の人の顔が出てきて戦争を止めなきゃといった人と人との関係性の中に、合理性を超えたところにあるのだと思います。

三宅善信

先月の南アフリカでのG20における諸宗教の対話でのテーマが「Ubuntu in action」でした。ズールー語の「Ubuntu」は「I am because you are.」つまり「あなたがいるが故に私がいる。あなたがなければ私はない」という意味です。要するに濃密な相互依存。そうした「Ubuntu」の気持ちで「Ubuntu」行動において示せというのがテーマでした。やはり実際の行動に移して初めて宗教者なんだとそこで教わりました。

3. 宗教右派、宗教の先鋭化について

釈徹宗

逆に宗教が暴力を先鋭化させている面も見られます。宗教右派の台頭、信仰の武器化などとも言われます。その辺り小原先生、いかがでしょうか。

小原克博

宗教右派という言葉はアメリカを文脈として語られてきました。特に1980年代のレーガン政権以降、宗教団体が投票行動を左右する存在として注目されてきて、その中で宗教右派を無視しては大統領になれない現実があります。

どの宗教にも先鋭化は見られます。日本も例外ではなくて、今年はおウム真理教の地下鉄サリン事件から30年ですが、あれはまさに先鋭化の例です。ですから外国でだけ起きるわけじゃなくて、私たちの社会の中でも起きてきました。

指摘しておきたいのは、この1年2年における劇的な変化です。それは右派の国際連携が見られるようになったことです。そうした拡大は、時代に対する新たな危機として認識した方が良いと思います。

釈徹宗

イスラム教はそもそもグローバルで国民国家に切り取られていないことに特徴があります。その中で先鋭化の危惧があれば教えてください。

サイド・佐藤裕一

日本におけるイスラム教は外国人がマジョリティを占めていて、その国籍が100以上に渡る

4. すべての「いのち」を慈しむ

釈徹宗

それでは、本日のテーマである「すべての『いのち』を慈しむ」についてお話しをいただきたいと思っています。

戸松義晴

自分のいのちを慈しめない人に、他のいのちを慈しめないでしよう。そのためには自分自身をありのままに受け止めることだと思います。

平和に関しても、自身に微笑まない人が他の人に微笑むことはできなくて、笑顔でお互いにいられることが基本ですが、自分自身にも家族にも、コミュニティでもあるいは国際的にも、そういうことが私たちが日々できることと思って、大事にしていきたいと思っています。

小原克博

キリスト教の「隣人愛」も、自身を愛するように隣人を愛しなさいと言われます。しかし、多くの人は他の人と比較したり、足りないところいっぱいあると考えてしまいます。そんな自分でも受け入れることができるようになった時に初めて、欠けのある隣人も受け入れることができる。こういう寛容なあり方は、隣人愛にとつてすごく大事です。

もしこの隣人愛が実践できれば世界はすぐに平和になるでしょう。ところがそうならないのは、隣人の境界線を狭く設定するからです。人間の世界の中だけでも同じいのちを慈しむのは大変です。

人間以外のいのちに対して、西洋キリスト教の世界では、人間中心主義が非常に強かった。ところが、それがダメだとだんだんと分かってきて、20世紀後半になると他のいのちや自然世界に対しても、目を向けるようになりました。そういった新しい文化が出てきていることを考えると、見方によっては日本よりはるかに進んでいる部分があります。

アナス・ムハンマド・メレ

言葉だけではなくて、文化、宗教、食べ物、服など、いろいろな学ぶ方が互いの対話になります。

感情の低さです。自分をポジティブに評価できない人が多いのが日本の課題。戦争を止めることは私たちに簡単にはできないですが、生きづらくて、自死に向かうような若者がいた時に、その呻きとか叫びみたいなものを受け止めていくこと、それが宗教者の役割であり、それができるような宗教者でありたいと思います。

戸松義晴

大事なことは、私たちの尺度でこれが良いと言うことではなくて、その人をそのまま受け止めることだと思います。無条件でというのはなかなかつらいことですが、既成概念を捨てて、人それぞれにいろいろな取り柄があり、やりたいことがあったら、それを私たちは無条件で受け止めていくのが宗教者の役割だと思います。

6. 人間中心主義とは違う価値観

釈徹宗

学校とは違う価値観に出会ったりすると、子どもはだいたい救われますよね。そうした価値観を提示する役割を宗教は担っているかと思えます。

さきほど小原さんからキリスト教において人間中心主義が変わってきたという話がありました。

私は、メッカというイスラム教の聖地の出身で、カーバ神殿の近くで働いていたので、様々な文化、民族の人々と出会ってきました。学んだ上で、共通点を見つけて、自分一人だけでもチェンジできれば、一人一人に伝えてチェンジできるという経験をしてきました。

次の万博はサウジアラビアのリアードで開かれます。リアード万博に向けた5年、今回を始まりとしてこうした対話をしていただけたらと思います。

サイド・佐藤裕一

イスラム的な世界観では、創造主と被造物の二つに分けることができます。人間でもそれ以外の草木でも星々でも、同じ被造物の枠に収められます。被造物はすべて不完全なもので、互いにその不完全性を相互補完していく存在と考えます。その繋がりを断つ。例えば人間であっても他の存在であっても、自分とは関係のない存在として蔑んだり、あるいは敵意を持って、いのちを奪ったものは、全人類のいのちを奪ったに等しい。逆に、人一人のいのちを救ったものは、全人類のいのちを救ったものに等しいというクルアーンの一節などもあります。

仏教にも「自他不二」という言葉があったかと思えます。自分と他人がまったく同じような存在ではない状況について三宅さんいかがでしょうか。

このまま人間の欲望を膨らませ続けると環境が持たない状況について三宅さんいかがでしょうか。

三宅善信

数年前、「人新世」という言葉が流行りましたが、人間中心主義が行き着くところまで行っています。それは人間様が偉いと思っていたからですが、生成AIという新しい環境が出てきて、大きな変化をもたらす可能性があります。向こうは疲れ知らずで一日中動けるわけですから、知識の量的な意味では勝てません。それが新しい可能性を開くかもしれないので、ここで向きを間違えたら何千年か前にアダムとエヴァの失敗のもっとひどいやつを我々は繰り返すことになるかもしれません。ですから、世界の宗教者はAIのアルゴリズムや使い方に発信して、AIの向きを変える必要があるのではないかなと思うんです。

7. 最後に

釈徹宗

最後に、未来に向けて伝えたいことをそれぞれお願いします。

あり、その自覚に至るまでは高い境地に至ることができない、というのと近いかもしれません。

三宅善信

私が「所有している」いのちと考えたら、私に生殺与奪、処分する権利があるわけですが、一方で私が「所属している」いのちと考えたら、私はそのいのちに乗っかっていて、そこから離れて私はないわけですから、神道的な考え方から言うと、集団のいのちだけではなく、ご先祖様との繋がりにもなってくるので、無量のいのちと言った時に、量的な話だけではなく、時間軸も考えに入れておかないといけないんじゃないかなと思いました。

5. 若者の自死について

釈徹宗

小原さんと戸松さんから、自分を愛する大切さの話が出てきました。今は、若者の死亡原因の1位が自死だったかと思えます。自分のことを好きになれる若者に対して何かお話しただけのこととはあります。

小原克博

これまで長年問題になってきたのは若者の自尊

サイド・佐藤裕一

人生において人間は目的をハッキリさせなければいけません。そのためには、人生に意味付けをする必要があります。それにあたって最も強いインパクトを持つているものが宗教だと思っています。一方で、争いの手段に最も用いられてしまいがちのも宗教です。ですから、慈悲の精神や自他不二の精神などを、私たちがまずは同じ宗教の信徒の方々に教化していくと同時に、その他の人々にも人生の目的とか意味を見出すことの重要性を適切な形で喚起していければと思っています。



小原克博

この日常を相対化してくれる非日常の視点を差し込むような役割が宗教には必要です。私たちは伝統を守ろうとし、時に若い人に押し付けようとし、もちろん嫌がります。しかし、伝統は大事なんだけど、それに基づきながら未来を作って



釈徹宗【コーディネーター】

僧侶。宗教学者。相愛大学学園長。武蔵野大学総長。浄土真宗本願寺派如来寺住職。宗教思想や宗教文化の領域において、比較研究や学際研究を行っている。近著に『喜怒哀楽のお経を読む』(朝日選書)など。



福岡伸一

生物学者、作家。京都大学卒。現在、青山学院大学教授、ロックフェラー大学客員教授。大阪・関西万博のテーマ事業「いのちを知る」プロデューサー。90万部を超えるベストセラー『生物と無生物のあいだ』(講談社現代新書)の著者。近著に「いのち動的平衡館」の構想過程を描いた『君はいのち動的平衡館を見たか 利他の生命哲学』(朝日出版)がある。



中島さち子

ジャズピアニスト、数学研究者、STEAM教育者。国際数学オリンピック金メダリスト(日本人女性初)。大阪・関西万博のテーマ事業「いのちを高める」プロデューサー。音楽・数学・STEAM教育(科学・技術・工学・芸術・数学の5分野を統合的に学ぶ教育)・メディアアートなどの世界で、国内外にて多彩に活動。



高橋源一郎

小説家。1981年『さようなら、ギャングたち』でデビュー。1988年『優雅で感傷的な日本野球』で第一回三島由紀夫賞。明治学院大学国際学部名誉教授。数々のテレビ・ラジオに出演し、現在NHKラジオ第1「高橋源一郎の飛ぶ教室」パーソナリティ、毎日新聞で「人生相談」、サンデー毎日でコラム「これは、アレだな」など多くの連載を抱える。



山極寿一

理学博士。2020年まで第26代京都大学総長。人類進化論専攻。屋久島でニホンザル、アフリカで野生のゴリラの社会生態学的研究に長年従事。現在、総合地球環境学研究所所長。大阪・関西万博シニアアドバイザーを務めた。近著に『争いばかりの人間たちへ ゴリラの国から』(毎日新聞出版社)、『老いの思考法』(文藝春秋)。

2日目

シンポジウム「無量の『いのち』すべての『いのち』を慈しむ」

全日本仏教会
YouTube
チャンネル



いく。そういう宗教の姿を示していきたいと思えます。今の世俗的な日常が決して満ちたものではないとするならば、そこから一歩足を抜いて、日常を相対化する非日常の視点を、それぞれの宗教伝統がどういう形で提供することができるのか。私たちが伝統の中だけでぐるぐる回っていると裸の王様と変わらないと思います。



戸松義晴

今回のような対話を聞いて、皆さんがそれをどう人に伝えるか、自分の生活の中に取り込んで変えていけるかが大事だと思います。それから、理想を捨てないこと。世界平和を人類は成し遂げていないですけど、それを成し遂げようとする理想ですね。

もう一つ、日本人として大事なことは、唯一の被爆国で、それがどんなに悲惨かを、どの国よりも一番分かっていることです。どんな理由があっても核兵器は持たない、使わないということを、私たちは不変のものとして持ち続けることが、核兵器で被害を受けた方や今でも苦しんでいる方たちに対する宗教者としての在り方かなと思います。

釈徹宗

どの宗教でも、人間の過剰な欲望への視点を持っていることは確かです。宗教だからこそ提示できる視点があることを私は信じています。

三宅善信
緒宗教間の対話と言った時に、とにかく何でも一緒に仕事してみる。例えば支援救援活動でも何でもいいです。一緒に仕事したら、嫌なやつだったけど一つぐらい良いところが見つかる。あいつ意見違うけど苦難からは逃げへんやつやとかをお互い発見できると思っています。そういう意味で、お互いの信頼を醸成するために一緒に仕事をする経験をしてみることが大事だと思います。



2日目のシンポジウムでは、最初に福岡伸一氏と中島さち子氏から、それぞれがプロデュースした大阪万博の「いのち動的平衡館」と「いのちの遊び場フラゲ館」の紹介から始まりました。

1. テーマを聞いて何を思うか。

釈徹宗

大阪府知事が当初、万博の構想について不老長寿とか生命技術という話をしていた時には、それは万博でやることかとガツカリしたのですが、先生方の手によって、大変深いテーマと思想とアート性豊かなものになっていることがうかがい知れました。

さて、本日のテーマの「無量の『いのち』」すべて「いのちを慈しむ」について、皆さんにまずは「無量の『いのち』」と聞けば、どんな印象を持つのか、どんなことが話せるのかを聞きたいと思います。

高橋源一郎

一つは生者と死者について。私の仕事場の左手の本棚には新刊本、右手の本棚には岩波文庫が入っています。新刊本は1回読めば充分だけど、トーマス・マンやドストエフスキーとかプラトンは繰り返し読む。こちらは毎回違うことを言う。僕が

変わっていることで、すでに亡くなった方々が違って読めるようになってきた。この場合どっちが死んでい

るんだと思うんです。生きている方の文章は何回読んでも同じだからもう読まな

い。死んでいる方々はその度に新しく違うことを言っているように聞こえる。最近、僕の中では、生命を持っているのは亡くなった方々で、生命を持っていると称している人が実は死んじやっていないんじゃないかと思つようになりました。

もう一つ、いのちに関してこういう考えがあるのかとショックを受けた本があって、エドワード・サイードの『始まりの現象―意図と方法』です。この中で、なぜ物事は始まるのかを探求するのですが、それは人間が生まれて死ぬからだ。人間が本当に理解できるのは、自分の身体感覚、すなわ



ち生まれ成長して死んで終わるという生命の形式だけだと。文学を含めて、あらゆる芸術や学問は、生命の形式をいわばコピーして作られたのではないかと。僕たちが文化の中に、生命という形式を反復することで実は文化を作ってきたのではないかとこのことを、この「無量のいのち」という言葉から感じました。

山極寿一

40年余り、毎年のようにアフリカでゴリラの群れと一緒に暮らす機会を多く持ってきた目から眺めると、いのちは、リズムと流れではないかと思えます。そのリズムと流れを共有することで、人間も他の生物と繋がることができます。生物も非生物も同じものからできていいるから、お互い感じ合い、同調し合い、共存できる可能性を持っているんです。デカルトの我思う故に我ありではなく、人間の本質を感情に置いたスピノザが正しいのだと思います。

産業革命以降、人間は自分自身を機械にしようとしてきました。今、AIによって機械を人間にし、人間のいのちの代替物として作り上げようとしています。いのちをまだ定義できていない我々は、その本質をもう一度考えなければならぬ時代だと思えます。

福岡伸一

私の立場は、生命はモノではなくコト、すなわち状態、現象であるという考えです。近代科学は、生命現象の特徴を列記しますが、それだけでは生命の本質に届きません。さらに、微分的に時間を止めて、ミクロな方向に生物を分解して解析してきました。それはもはや生物ではないんですが、それに基づいて作られている我々の生命観、図式化されすぎた生命観をもう一度転換していかなくちゃいけないのではないかと思っています。それが科学の役割であり、宗教の役割でもあります。

中島さち子

揺らぎのある遊びが創造性にとってもいのちにとっても大事なのではないか。

2. 利他と共感、そしてAI

釈徹宗

生命の本質というか、その動きの中に死があった、それは利他という文脈で読めるという福岡さんのお話と、山極さんは人類が共感を獲得したることによって人類が人類になっていったというお話。この辺りを聞いてから、世界平和へと進めていきたいと思います。

福岡伸一

20世紀の生命観の一つにリチャード・ドーキンスの利己的遺伝子論があります。自己複製できるDNAは自身をコピーすることが最大の目的で、生命体はその遺伝子の乗り物であるという基本原理です。

しかし、21世紀に入ると、それが確かとは必ずしも言えなくなりました。遺伝子中心ではなく、生命同士の関係性から生命を見た方がよいとなってきました。そうすると、生命は絶えず何かを別の生物に手渡しています。何かを与えるところから何かがやってくるというのが本当の利他性であって、それがネットワーク上を回っているから地球は健康でいられる。人間だけが利己的に振舞い、フローである生命をストックに変えて集めてしまっていることで世界が変わってしまったことに問題があります。

山極寿一

共感とは諸刃の剣です。人は他の動物や植物の真似ることが出来ます。それは人間だけの能力です。その真似が人間の共感力を向上させました。その共感力が動物のみならず、人間自身を家畜化する結果となりました。さらにAIのような機械によってコントロールされるところまで来て

います。共感力によって相手が何をされれば嫌かわかるので、SNSでは相手を貶めようとする悪だくみが蔓延し始めています。SNSでは身体ではなく脳だけで繋がるから、痛みが分からなくなってしまうています。これが、人間が共感力を持ってしまったことによる弊害です。

高橋源一郎

今、AIの話が出ましたが、文学はAIと一番遠いと思つていたんですが、今のAIは文章を書かせる人間以上に上手いです。文学賞が廃止になったり、AIを使ったことを明記させる賞を出してきました。向こう側にいるのが生成AIか人間か区別できなくなった時、生命の定義を変えなきゃいけないでしょう。

山極寿一

文字の世界は情報だから、AIは莫大な情報を瞬時に解析してリクエストに答えます。答えられないのは感情の機微や瞬間的な直感です。今の人間は直感力を使っていないから、付き合い下手になっています。常にデータベースみたいなAIに聞いて、この時どうしたらいいんでしょうみたいな。だから自分から働きかけるのではなくて、待つている人たちが多くなりました。

中島さち子

人間でもいろいろな人がいるように、AIもどう学ぶか次第です。だから完璧なAIがないのは間違いないと思うんです。宗教でも哲学でも、人間と一緒に最終的に大正解なものがあるとか、神みたいな状態にAIが行くかということ、私は違うのかなと思います。

データ化する時に削ぎ落としているもの。私たちがまだデータ化できていないもの。それが山極先生が今おっしゃった、第六感とか直感とかで、突拍子もないアイデアを思い付くみたいな発想の跳躍もAIにはまだ難しい。

身体性としてもコンピューターさんは微妙です。例えば石黒浩先生のアンドロイドみたいに、AIにも身体性を持たせていこうという研究があるんだけど、まだまだです。

もう一つ難しいのが喜びや苦しみ。AIやロボットには産み出す喜びや苦しみ、つまり、下手することがなかなかできません。

釈徹宗

データを集めているうちに感情が発生するといふのはあり得るんですか？

明できるのは、こちらだけです。もう一つは「Why」。この「なぜ」を説明してくれるのが宗教のはずなんです。

しかし、Howが十分に説明され尽くさなければ、Whyの疑問には決して到達できないと思います。ですから宗教の人たちがWhyに答えるためには、言葉の解像度が高くないといけない。

でもAIが模倣してできるようになったことが明らかにしてくれていることは、言葉というのはそんなに大したものじゃなかったということです。それだけに、何がAIにできて、何がいのちにしかできないかを考えていかなければならないと思います。

高橋源一郎

今のところAIが絶対できないことは、「問いかけ」です。問いかけができないことの結果は、自ら物語を作れない。

福岡伸一

もう一つ、AIには決してできないことがあります。それは「動的平衡」です。AIはデバッグによってあらゆる情報を集めているだけで、内部で自分の情報を自ら破壊したり忘れたりすることができない。溜める一方なので、今内

中島さち子

所詮データだからと言うのは簡単だけど、ミラルのような何かが起こって、感情的なものに至るということ自体はあり得ると思っています。

山極寿一

ところで高橋さん、AIは行間が読めるんですか？

高橋源一郎

結構読めてますね。実際に誰が書いたかわからないみたいになって、絶望的になっている編集者とか、作家とかいるんです。僕は逆に、人間にできてAIにできないことは何だろうと考えられる。AIは完璧なのを書いてくるわけです。つまり緩みがない。緩ませるといふ概念がないんです。それによって人間が今のところ優位に立っているある種のヒューマニティーの部分が逆に分かってくるわけです。

文学だけではなく、宗教も政治も言葉を使いますから、AIにはできない表現を磨いていかなきゃいけないと思います。

山極寿一

科学者は今、物語を作れていないから人々はエ

部に膨大なエントロピーがどんどん溜まっている状態。いかにAIの内部で動的平衡を行わせるか、そうしないと存続できないことになります。

3. 世界平和について

釈徹宗

実は実行委員会が予定していた一番目の世界平和にまだ話が行けてないんです。強引ではありませんが、世界平和、皆さんが危惧していることをラウンドにお話しいただければと思います。今の世界の状況が心配だ、こういう方向があるんじゃないかというのがあればお話しただけですか。

中島さち子

多様な存在と出会うことは、私は単純に面白いですごく開いていくものがあると思います。だから、いろいろな立場の人が出会って共に作るみたいなことを、この21世紀は挑戦していかなくちゃいけないんじゃないか、そこにはAIさんもいてもいいのかもしれない。そのために万博も価値があるのだと思います。

釈徹宗

越境する回路とか、かき混ぜる役割を果たすも

ビデンスのない

似非科学の方に流れていってしまっています。

一方で、宗教は物語と信念が結びついて人々をセーフティーネットワークとして包み込む。

科学に負けていた時代もあったけど、一貫して宗教に対する信頼や信念というのは生き残り、それがさらに拡大しつつあるのが現代ですよ。それを宗教者はどう思うんですか？

釈徹宗

私がお話する前に、今の人間にとっての物語と信念について福岡さん、いかがですか？

福岡伸一

科学の役割は、この世界のあり方、生命現象のあり方を言葉で説明することでした。でもその説明の仕方は、2つの疑問の形式の1つしか説明できません。2つというのは1つは「How」。「いかにして」それが成り立っているか。科学が説

の目を向ける。そういう意味では音楽とかAIトは越境能力が高い、かき混ぜる能力が高いと思います。

高橋源一郎

僕、60歳になるまで戦争の話は聞きたくなかったんです。でもそれを知らない自分が何者であるかがわからないということに気が付いた。自分も戦争の世代から来ているわけですから。

それまでは世界で戦争があつて悲惨な出来事があふれていても、それは人ごとでした。一般論で戦争はダメ、平和が良いという訴えは無効なんです。一義的にこれが自分のことにならない限りダメ。みんなあの時代から来て、そしてその時代のさまざまなものを受けてここに来ているから知るべきなんです。それがそう思えるようになるまでやや時間がかかるかなと思いますし、戦争と平和について誰もが「自分にとっての」と言えるような何かを仕事でしたいというのが、最近のテーマです。

福岡伸一

生物学者の立場から平和を考えると、人間以外の生物のあり方に学ばしかないと。一つは生物の争いは、生命を次世代に繋ぐため





第104回 WFB(世界仏教徒連盟)執行役員会議

2025年9月5日～6日、全日本仏教徒会議大阪大会に合わせて、本会が加盟するWFBの、第104回執行役員会議が行われました。WFBの役職者を中心に、世界12カ国から約40名の各国代表者が大阪に集まりました。

日本からは戸松義晴WFB執行役員、小林正道WFB副会長、日比野郁皓WFB顧問、東海林良昌WFB人道支援委員会委員長、村山博雅WFBY会長、本会の国際交流審議会の委員の皆さま、そして事務局から国際部が参加しました。

9月4日(木)

タイ、アメリカ、インド、インドネシア、オーストラリア、シンガポール、ネパール、マレーシア、モンゴル、中国、韓国、台湾から続々と参加者が関西国際空港に到着しました。空港では仏旗を持った本会職員のもと、順次ならばOCAT行のバスにご乗車いただきます。降車地で再度職員が仏旗を持ってお迎えし、宿泊のホテルフロントレグラスミア大阪までご一緒しました。19時よりカジュアルな前晚夕食会を開催しました。

9月5日(金)

9時より、ホテル日航大阪で、WFB執行役員会議が開催されました。開始前には、大阪府佛教会の村山廣甫会長(本会副会長)を始め、大阪府佛教会の方が会場までご挨拶に来られました。挨拶の中で村山会長は、ご自身のWFB人道支援委員会での思い出を語られ、参加者に心からの歓迎の意を表しました。

開会に先立ち、まず



の争いであって、死を求める争いはありません。もう一つは、世界は色々な生命によってあらかじめ棲み分けられているという考え方がありません。国境や文化や民族や人種みたいに口ゴスがり出した分断線を、他の生物の在り方を見ることによってできるだけ溶かしていくしか、本来の生命の在り方、それを平和と呼ぶならば、そこには行き着かないんじゃないかなと思います。

山極寿一

人類の進化と文明の在り方を考え直さないといいけないと思うんです。戦争は人間の本性かという話が1950年代60年代に欧米社会で高まりました。その時に出てきたのは、人類の古い骨を発掘したレイモンド・ダートという人が言い出した狩猟仮説で、200万年前から人類は動物の骨を武器にして戦い合っていたというものです。だから戦いは人間の本性であると。

だけどその説は覆されました。ではどういう理由で戦争が始まったのか。それを歴史学者のジェームス・スコットが『反穀物の人類史』という本で書いています。それによると最初の戦争は国土、領土を拡大するためではなくて穀物、特に小麦を栽培するための奴隷を作るためだったと。

中南米のコスタリカは1948年から軍隊を持たず。

たずに平和にやってきました。そのように世界の文明同士が戦争をずっと仕掛けていたわけではなくて、軍隊を持たずに平和を保っている国があるという事実ややっていける可能性をもう一度検証し直す必要があるんじゃないかと思っています。

釈徹宗

皆さん、ありがとうございます。

仏教は出世間の法、世間から出る法と共に、この世間をどう運営していくかという法も持っています。基本的にはフェアネス、公平性。そしてシェア、分かち合う。そしてケア。フェア・シェア・ケア、この3つの原則を2500年前から提言し、説き続けております。おそらく、この3つを普段から大切にしている社会とか人間は、危機状況に強いと思います。大災害に起きた時に頼りになるのはその3つだろうと思います。昨日の話にもあったように、仏教はそんなに規模は大きくないし、あげる声は小さいかもしれませんが、発言し続けていきたいと思えます。今日のお話で皆さん何か心に響いたりしたことがあれば、ぜひ周りの人にもお伝えいただければ幸いです。



パロップ会長から挨拶がありました。WFB創立75周年の意義を強調され「世界の変化に対応し組織を活性化するためには、WFBが現代の期待に適切していくことが不可欠」と組織変革の必要性を訴えました。そして、今回の執行役員会議をWFB変革委員会と銘打ち、「如何にWFBを持続可能な組織にしていくか」を議論することを求めました。



続いて、ネパールのジョティ副会長からの推薦で、アニル博士がモデレーターとなり、これからの変革について話し合いました。アニル博士は1961年ネパール生まれ、アメリカのペンシルベニア大学で学び、世界銀行をはじめとする開発途上国で活動する多国籍機関で働いており、インフラ投資や地域開発問題を中心に深く関わってきました。また、コミュニティの自治や地方自治の運営にも精通しています。この会議開催前に参加者には事前アンケートが配られていました。

また、本会の伊藤唯眞会長からパロップ会長に、感謝状が贈呈されました。2025年4月に浄土宗大本山増上寺の三大蔵がユネスコ「世界の記憶」に登録された際、ユネスコに唯一事務所を構える仏教組織であるWFBに、ユネスコ関係者との調整など、大変ご尽力いただいたことへの感謝状でした。

続いて、ネパールのジョティ副会長からの推薦で、アニル博士がモデレーターとなり、これからの変革について話し合いました。アニル博士は1961年ネパール生まれ、アメリカのペンシルベニア大学で学び、世界銀行をはじめとする開発途上国で活動する多国籍機関で働いており、インフラ投資や地域開発問題を中心に深く関わってきました。また、コミュニティの自治や地方自治の運営にも精通しています。この会議開催前に参加者には事前アンケートが配られていました。

また、本会の伊藤唯眞会長からパロップ会長に、感謝状が贈呈されました。2025年4月に浄土宗大本山増上寺の三大蔵がユネスコ「世界の記憶」に登録された際、ユネスコに唯一事務所を構える仏教組織であるWFBに、ユネスコ関係者との調整など、大変ご尽力いただいたことへの感謝状でした。

また、本会の伊藤唯眞会長からパロップ会長に、感謝状が贈呈されました。2025年4月に浄土宗大本山増上寺の三大蔵がユネスコ「世界の記憶」に登録された際、ユネスコに唯一事務所を構える仏教組織であるWFBに、ユネスコ関係者との調整など、大変ご尽力いただいたことへの感謝状でした。

戸松義晴WFB執行役員が閉会の挨拶を述べました。

また、本会の伊藤唯眞会長からパロップ会長に、感謝状が贈呈されました。2025年4月に浄土宗大本山増上寺の三大蔵がユネスコ「世界の記憶」に登録された際、ユネスコに唯一事務所を構える仏教組織であるWFBに、ユネスコ関係者との調整など、大変ご尽力いただいたことへの感謝状でした。

また、本会の伊藤唯眞会長からパロップ会長に、感謝状が贈呈されました。2025年4月に浄土宗大本山増上寺の三大蔵がユネスコ「世界の記憶」に登録された際、ユネスコに唯一事務所を構える仏教組織であるWFBに、ユネスコ関係者との調整など、大変ご尽力いただいたことへの感謝状でした。

2日目は四天王寺へ向かいます。最初に四天王寺の五智光院をお参りし、参加者全員でパーリ語の三帰依文を誦経しました。その後、会議場の安養殿に移動し、WFB執行役員会議が始まりました。パロップ会長は冒頭で伊藤唯眞会長、大阪府佛教会や全ての関係者に御礼を述べました。

午後5時に移動し、第47回全日本仏教徒会議大阪大会に参加しました。開会式の祝辞でパロップ会長は「慈悲深い行動は、生きとし生ける全てのものに幸福に対する、私たちの献身で体现されます」と、他者を助けることが心の平和の源になると語りました。

また、本会の伊藤唯眞会長からパロップ会長に、感謝状が贈呈されました。2025年4月に浄土宗大本山増上寺の三大蔵がユネスコ「世界の記憶」に登録された際、ユネスコに唯一事務所を構える仏教組織であるWFBに、ユネスコ関係者との調整など、大変ご尽力いただいたことへの感謝状でした。



2日目は四天王寺へ向かいます。最初に四天王寺の五智光院をお参りし、参加者全員でパーリ語の三帰依文を誦経しました。その後、会議場の安養殿に移動し、WFB執行役員会議が始まりました。パロップ会長は冒頭で伊藤唯眞会長、大阪府佛教会や全ての関係者に御礼を述べました。

午後5時に移動し、第47回全日本仏教徒会議大阪大会に参加しました。開会式の祝辞でパロップ会長は「慈悲深い行動は、生きとし生ける全てのものに幸福に対する、私たちの献身で体现されます」と、他者を助けることが心の平和の源になると語りました。

また、本会の伊藤唯眞会長からパロップ会長に、感謝状が贈呈されました。2025年4月に浄土宗大本山増上寺の三大蔵がユネスコ「世界の記憶」に登録された際、ユネスコに唯一事務所を構える仏教組織であるWFBに、ユネスコ関係者との調整など、大変ご尽力いただいたことへの感謝状でした。

第36期第5回社会・人権審議会

日時…令和7年7月3日14時
会場…本会会議室(オンライン併用)
出席委員…

- 濱田智祥(曹洞宗)【委員代理】
- 岡田光恵(浄土真宗本願寺派)
- 長谷川岱潤(浄土宗)
- 藤本善光(高野山真言宗)
- 谷明生(臨済宗妙心寺派)
- 草別善哉・森定慈宏(天台宗)【委員代理】
- 荒井真道(真言宗智山派)
- 小林政彦(真言宗豊山派)
- 株橋隆真(法華宗(本門流))
- 参加理事…
- 長澤香静(一財)京都仏教会)
- 一宮良範(念法眞教)

【概要】
三帰依文を唱和の後、谷明生委員長の進行により、「諮問①首相及び閣僚の靖国神社公式参拝中止要請について」に係る理事長声明および「諮問②仏

教者として死刑に ついてどう考えるべきか」に 関連した 理事長談 話「犯罪被害者週間 によせて」 について、各文書の文言の検討、審議を行いました。また「諮問③『過去帳』等の取扱について」に関連して実施した「人権問題連絡協議会」(令和7年6月11日開催)の報告をしました。



ダライ・ラマ法王誕生記念 祝賀パーティー

令和7年7月6日ダライ・ラマ法王日本代表部事務所主催によるダライ・ラマ法王誕生記念祝賀パーティーがホテルオークラ東京で開催されました。最初に曼荼羅の儀という法会が行われ、チベット語で読経がなされました。その後ダライ・ラマ法王日本代表部事務所のアリア・ツェワン・ギャルボ代

表がご挨拶 されました。アリア代表 は歓迎の意を表し、ダライ・ラマ法王の化身 制度についての法王の 声明を語られるとともに、ダライ・ラマ法王の90歳を記念して陽光桜という桜の植樹プロジェクトが行われることを紹介されました。また、アリア代表や祝辞を述べた多くの方々はダライ・ラマ法王の長寿を祝い、個々に法王との思い出とともに、平和を願っておられました。会の途中に、ダライ・ラマ法王の映像や、チベットの音楽や踊りの映像も流されました。ダライ・ラマ法王の90歳を祝う催しをはじめ、世界中で行われています。



第36期第1回朝鮮半島出身者の 旧民間徴用者等の遺骨返還委員会

日時…令和7年7月24日14時
会場…本会会議室(オンライン併用)
出席委員…
隅倉浩信(浄土真宗本願寺派)
高原恵(眞宗大谷派)
村松雄道(浄土宗)【委員代理】
渡邊貫祥(日蓮宗)【委員代理】
藤本善光(高野山真言宗)
小林政彦(真言宗豊山派)
牟田清樹(真言宗御室派)
佐藤隆一(日韓仏教交流協議会)

【概要】
三帰依文唱和、和田学英事務総長挨拶の後、委員の委嘱が行われました。その後、参考人として出席した、内閣官房、外務省アジア大洋州局、厚生労働省職業安定局、文化庁宗務課、各担当者から日韓両政府間の遺骨奉還に向けた進捗状況等の報告を受けました。その後、委員から各加盟団体における現況報告、懸念事項等を共有しました。また事務局から、人道的な観点から、政府は一刻も早い遺骨奉還への道筋を示すよう要望しました。

実行委員長挨拶

全日本仏教徒会議大阪大会を終えて

大阪府仏教会副会長
第47回全日本仏教徒会議大阪大会実行委員長
清澤 悟



9月5日・6日の両日に亘り「第47回全日本仏教徒会議大阪大会」を滞りなく充実した形で終えることが出来ましたことは大きな喜びであります。本大会は大阪府仏教会にとりましては、創立60周年にあたる記念すべき大会となりました。また、この機は大阪・関西万博開催期間中であるとともに、戦後80年という大切な節目の年にもあたり、それぞれの意味を思い万博の意義を問うことを軸に展開することといたしました。大会テーマを「無量の『いのち』～すべてのいのちを慈しむ～」と謳い、折しも万博で掲げられた「いのち輝く未来社会のデザイン」に通底しながらも、その根幹にある「いのち」をより宗教的・精神的・人文的にとらえ、その意味探究を試みました。

開会式においては開催を記念し、戦後80年にあたり今なお続く諸々の尊い命の喪失を追悼した平和実現に向けた法要を、全日本仏教会会長・浄土門主 伊藤唯眞猥下御導師のもとに厳修いたしました。そして大会会長・大阪府仏教会 村山廣甫会長による今大会の意義披瀝の後、世界仏教徒連盟(WFB)パロップ・タイアリー会長にご祝辞をいただき、増上寺三大蔵のユネスコ「世界の記憶」登録への尽力に関連し、WFBへ感謝状の贈呈式が行われました。

初日は「未来社会における宗教の役割」と題し、「いのち」と平和・争いをテーマにした諸宗教対話フォーラムが、仏教・キリスト教・イスラム教・神道各界から諸碩学をお迎えして執り行われました。それぞれのお立場ご信条から、今日の世界における紛争や様々な不条理について宗教者として問われていること、果たせる役割について熱心な意見交換がなされました。宗教者は諦めることなく連携出来ることを、手探りながら誠実に思考し取り組んでいくことが大切であると学ばせていただきました。さらに、大阪大空襲パネル展や、シャンティ国際ボランティア会による講演会も併催され、交流会では、各宗派各界御代表、関係役員を含め、仏教会の今後への更なる充実と持続に繋がるべく懇親を深めました。

2日目は、大会テーマに則るシンポジウムが開催されました。万博テーマに掲げられた「いのち」について、人文分野の諸賢人各位にご討論いただき、深いご考察ご意見を拝聴しました。今日の思考の在り方の新しい側面であるSNSや、AIに関する議論も含め「いのち」についての宗教的・人文学的な意味を学ばせていただきました。

お陰をもちまして、ユーチューブLIVEによるリモート参加者を含め1,500人を超える規模での発信となりました。大会の締めくくりとして両日の学びを「未来社会のデザイン」、即ち人智による社会形成に向けて大切となることとして「大会宣言」にまとめ発表するとともに、本大会の成果として日本国際博覧会協会並びに国連にも提示させていただきました。

(なお大会の様様・記録はユーチューブにても発信しております)

「首相及び閣僚等の靖国神社公式参拝に関する見解並びに要請」提出

令和7年7月30日、石破茂内閣総理大臣宛に、7月3日の社会・人権審議

首相及び閣僚等の靖国神社公式参拝に関する見解並びに要請
本年は、第二次世界大戦が終結して八十周年の節目の年を迎えます。
私たちが公益財団法人全日本仏教会が加盟団体所属する全国の七万有余の
寺院では、例年通り、各所で追悼法事が行われております。



第6回法人創立70周年 記念事業実行委員会

会場で審議した「首相及び閣僚等の靖国神社公式参拝に関する見解並びに要請」文書を、自由民主党本部において日光照應理事長から小淵優子自由民主党組織運動本部長(当時)へ手交しました。

第6回法人創立70周年 記念事業実行委員会
日時：令和7年8月7日10時
会場：本会会議室(オンライン併用)
出席委員：
和田学英(事務総長)
渡邊弘文(浄土真宗本願寺派)
石井正道(真宗大谷派)
西 央成(浄土宗)
坂詰秀正(日蓮宗)
井上聖憲(高野山真言宗)
西村智秀(天台宗)
平野哲央(真言宗智山派)
小川淳詩(公財)仏教伝道協会)
柳池友絢(学識経験者)
加藤京子(学識経験者)
村瀬友洋(学識経験者)

仏教に関する実態把握調査 (2024年)説明会実施

日時：令和7年9月17日13時30分
会場：真宗木辺派宗務所
(滋賀県野洲市)
開催方法：ハイブリッド式
(オンライン併用)

「仏教に関する実態把握調査」は本会が大和証券株式会社とともに、2017年から2年ごとに一般の人を対象として実施している大規模調査で、調査内容については、加盟団体からの依頼に基づいて、随時説明会を実施しています。
9月17日には滋賀県野洲市にある真宗木辺派の宗務所において、大和証券株式会社から講師を招いて説明会を開催し、宗派関係者がオンラインも含めて約20名ほど参加しました。
これまでの調査結果は本会のホームページに掲載しておりますが、説明会を希望する加盟団体は、広報文化部までお問い合わせください。皆さまからのお申込、お待ちしております。



仏教に関する実態把握調査 (2024年度) 報告書
大和証券
https://www.jbf.ne.jp/activity/kouhou/tyousa2024

第36期第4回支援検討会議

日時：令和7年9月19日13時30分
会場：本会会議室(オンライン併用)
出席委員：
吉田泰樹(東京都仏教連合会)
鬼頭広安(一社)仏教情報センター)
茅野俊幸(仏教NGOネットワーク)
新井順證(全日本仏教青年会)
オプザーバー：
来馬司龍(全日本仏教青年会)

【議題】

- ① 救援基金報告
② 第30次災害救援助成金申請について(2025年2月1日~9月30日)
③ 第32次災害救援助成金募集要項について
④ 「平成28年熊本地震」救援基金寄託について(報告)
⑤ 「ミャンマー地震」救援基金支出について(報告)
⑥ 「ミャンマー地震」救援基金の支援先について
⑦ 令和6年能登半島地震救援基金について

「救援基金」寄附者一覧

⑧ 令和7年8月6日からの大雨による災害について
⑨ 第5回支援検討会議日程について

2025(令和7)年7月1日~
2025(令和7)年9月30日
(時系列順・敬称略)
臨済宗妙心寺派
公益社団法人日本仏教保育協会
東京都仏教連合会
高野山真言宗
茨城県仏教会
益田市仏教会
沖縄県仏教会
大阪府佛教会
匿名希望9件
総計 2,553,469円

「賛助会員」新規入会者一覧

2025(令和7)年7月1日~
2025(令和7)年9月30日
(時系列順・敬称略)
(法人会員)
SOTO保険サポート株式会社
(個人会員)
鈴木謙太
ご入会、誠にありがとうございます。

賛助会員募集

本会では賛助会員を募集しております。全国の寺院をはじめ、企業や団体、個人としてご入会いただけます。入会等の詳細は本会ウェブサイトをご覧ください。



大会宣言

大阪府佛教会は創立 60 周年を記念し、公益財団法人全日本仏教会とともに、ここ大阪において、第 47 回全日本仏教会議大阪大会を 2025 年 9 月 5 日・6 日両日に亘り開催いたしました。全日本仏教会会長、浄土門主 伊藤唯眞殿下を大会総裁としてお迎えし、また、タイ王国より世界仏教徒連盟 (WFB) パロップ・タイアリー会長にもご参加いただき、日本全国のみならず世界各国からも多くの方々のご参加のもと、「無量の『いのち』～すべてのいのちを慈しむ～」をテーマとして意義ある大会が無事円成しました。

この度の大会招致の契機ともなった、2025 年大阪・関西万博 (日本国際博覧会) は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げて、本年 4 月より 184 日間にわたって開催されています。シグネチャーパビリオンをはじめ、今、決して忘れてはならない、様々ないのちが軽んじられている混迷した世界の現実を鑑みたパビリオンが多く見られます。しかしながら、日本開催の国際博覧会というイベント自身が持つ性質上、宗教的な観点から、特に 2500 年続く仏教の視点から深く「いのち」の考察が成されていないことを、非常に残念だと考える次第です。

そこで、私たち仏教者は、本大会において、「いのち」を仏教的、宗教的、精神的、人文的、哲学的に考察し、叡智を集結して、その成果を世界に発信したいと存じます。今世界が直面している「いのち」の危機に関わる多くの事象—すなわち、ウクライナや中東地区での非人道的な戦争、気候変動による地球温暖化、破壊的な災禍—まるで「末法の世」ともいえるほど世界は混乱し、社会規範の軽視や諸価値の大きな変化がみられます。戦後 80 年という歴史的な節目に、すべての人が「いのち」の本質を見つめ直すことを提言したいと思えます。

大会テーマである「無量の『いのち』～すべてのいのちを慈しむ～」について、私たちはブッダの深い智慧と言葉にあらためて学び、人間の、また、生きとし生けるものの「いのち」の在りかたと、その意味の探究を試みました。諸宗教を代表する碩学諸先生の見識に学び、人文知やリベラルアーツの分野を代表する賢人諸先生の知見を拝聴することにより、改めてブッダが生涯をかけて教説した「無量の『いのち』」について参究いたしました。

2 日間に亘って行われた記念式典、平和祈願、追悼法要、諸宗教対話フォーラム、そしてシンポジウムを通して、大阪・関西万博が掲げる「いのち輝く未来社会」の実現には、私たち一人一人が、何事も性急この上ない現世の中で、まずもって立ち止まり、現実をしかと見据え、目指すべきものの理念、目的達成の手法等々を「思惟」「熟考」し、行動することの必要性を学びました。そして何よりもその「礎」となる「正しい」精神を涵養する「こころがまえ」が重要であるという、究極のところ、「こころ」の問題に帰着すると結論し、それらをいくつかの「たいせつなもの」として掲げ、本大会の宣言といたします。

—— 「たいせつなもの」 ——

大阪・関西万博テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」の真の意義達成のため、「無量の『いのち』～すべてのいのちを慈しむ～」という仏教精神に照らして、テーマの根幹である「いのち」について、生は偶然、死は必然であることを再確認し、私たちに不可欠な「こころがまえ」を、本大会の成果として以下に列挙し、大会宣言といたします。

- ひと/いのちは、まことに在りがたいもので尊ばれ慈しまれるべきものである
- ひと/いのちは、自然の一部であり、その法、摂理を尊重すべきものである
- ひと/いのちは、生まれれば、やがては老い、病み、死んでいくものである
- ひと/いのちは、諸相の流れ、変化のなかにあり、死後もとどまることはない
- ひと/いのちは、中庸と利他、融和と非戦の精神により生かされるべきである
- ひと/いのちは、人知の成果である、倫理と規範により生かされるべきである

宣言については、「いのち」をテーマとした諸宗教対話フォーラム、シンポジウム要約とともに、公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会をはじめとする公的な組織に届けます。また、私たち仏教者が、これを現在および未来の人間精神のあり方への警鐘として、あらゆる機会に発信し、実践すべく努めてまいります。

2025 年 9 月 6 日
第 47 回全日本仏教会議大阪大会

